

2020 年 3 月期 第 3 四半期決算 電話説明会 質疑応答

実 施 日 : 2020 年 1 月 30 日 (木)
当 社 説 明 者 : 常務取締役経理担当役員 横田 明宜 IR グループマネージャー 菅原 海 (司会)

以下は、説明会における主な質疑応答を取りまとめたものです。

- Q1) 当初 2022 年度を予定していたファンタジースプリングスの開業が 2023 年度に変更となった理由は何か。今後さらに遅れる可能性はないのか。
- A1) 一部施設の仕様やデザインを決めるうえで時間を要した。本プロジェクトはこれまでにない規模での開発であるだけでなく、導入するアトラクションが東京ディズニーリゾートオリジナルでもあるため、開発は慎重かつ確実に進めていく必要がある。現状ではさらに遅れるということはないと考えており、工事は順調に進んでいる。
- Q2) 開業時期の変更によってファンタジースプリングス開業と東京ディズニーリゾート 40 周年のタイミングが重なってしまうが、運営上の問題はないか。
- A2) ファンタジースプリングス開業と東京ディズニーリゾート 40 周年が同年度に重なっても問題がないよう検討を重ねており、決まり次第お知らせする。キャストなどの人員については、テーマパーク、ホテルともに順調に採用できているため、問題はない。
- Q3) チケット価格改定の改定幅がこれまでよりも大きいのは何が理由か。価格変動制の導入などを同時に行わなかったのはなぜか。
- A3) 従前と同様、テーマパークの体験価値向上と価格感度調査の結果を踏まえて決定した。東京ディズニーリゾートは“ファミリー・エンターテイメント”を目指しており、幼少期からご来園いただきやすいよう小人価格を据え置き、中人価格についても改定幅を小さくした。価格変動制だけでなく、ファストパスの有料化なども含め、チケット価格改定の考え方を再検討している。
- Q4) 今回のチケット価格改定に 2020 年 4 月 15 日に開業する東京ディズニーランド大規模開発の体験価値向上分は含めているのか。
- A4) 開発エリアは価格改定をする 4 月 1 日時点ではまだ開業していないため、体験価値向上には完全に含めてはいない一方で、価格感度調査を行った時点では該当エリアの導入が発表されていたため、調査結果にはご期待も含まれている可能性はあると考えている。
- Q5) 新型コロナウイルスの業績への影響はあるか。具体的な対応策など検討しているか。
- A5) 現時点では本件による業績修正等の予定はないが、今後の動向を注視している。従前から有事の際に迅速に対応できる危機管理体制は構築できており、ゲストやキャストの安全を最優先に考え、業績への影響は慎重に判断していきたい。

以上